

## 第2節 産業・活力

### 戦略の設定

地域消費型<sup>73</sup>の経済構造となっている札幌・北海道は、今後想定される人口減少により、経済規模の縮小や、市民所得の減少による経済的困難を抱える層の拡大など、深刻な影響を受ける懸念があります。これを克服していくためには、北海道経済全体の活性化を見据え、魅力と強みを生かして、新たな価値の創造による産業の高度化を図るとともに、道内循環を高め、道外需要を取り込むことで、足腰の強い経済基盤を確立することが重要な課題となります。また、経済を支える人材を育て、札幌・北海道の経済のために活躍してもらうことも必要です。そこで、「産業・活力」のテーマでは、3つの創造戦略を掲げます。

#### 創造戦略4

##### 札幌型産業創造戦略

～新たな価値の創造による産業の高度化～

#### 創造戦略5

##### 都市ブランド創造戦略

～道内循環を高め、道外需要を取り込む手法と基盤づくり～

#### 創造戦略6

##### 産業人材創造戦略

～将来の札幌・北海道経済を支える人材の育成・活用～

<sup>73</sup> 【地域消費型】ここでは、ある圏域において生産されるものや提供されるサービスを圏域内で消費する行動形態をいう。

### 10年後の目指すべき姿

札幌が持つ魅力的な地域資源を生かした食や観光分野において、新たな価値が生まれ出され、これらを機軸とした幅広い産業分野の競争力が高まっています。また、低炭素社会の実現や超高齢社会<sup>74</sup>の到来によって生じる様々な需要や課題を的確に捉え、その対応などを通じて新たな価値を創造する環境、健康・福祉分野の産業が根付き、新しいビジネスが生まれています。

パラダイム  
シフト

実現するために変わります！

北海道の魅力資源を生かした産業力強化

- ◆食の新たな価値創造、食関連企業の集積
- ◆札幌・北海道の強みを生かしたMICE誘致の強化



## 4-① 食の魅力を生かした産業の高度化

現状分析と施策の方向性～SWOT分析より～（参考資料2参照）

北海道は高い食糧自給率<sup>75</sup>を誇り、道産食材のブランドイメージ<sup>76</sup>は高いものの、食料品の粗付加価値率<sup>77</sup>は30.5%（平成22年（2010年））で、全国の中でも低い状況にあります。一方、札幌市では、製造業の中でも食料品の事業所数などの割合が最も高く、食関連産業の集積が進んでいます。

こうした中、道内一次産品と市内の製造業などとの連携を促進し、食の魅力を生

<sup>74</sup> 【超高齢社会】総人口に占める65歳以上人口の割合が21%を超える社会のこと。なお、7%以上14%未満を「高齢化社会」、14%以上21%未満を「高齢社会」と呼ぶ。

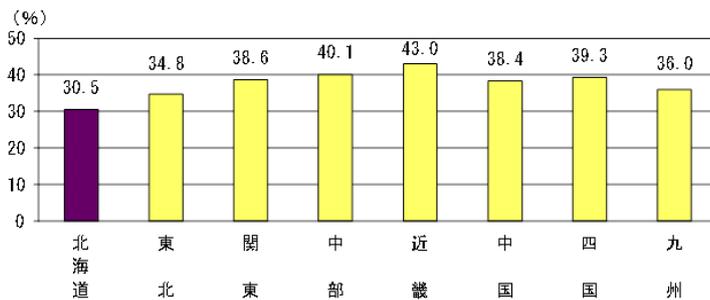
<sup>75</sup> 【食糧自給率】特定地域の食糧消費が、同一地域の農業生産でどの程度賅えているかを示す指標。

<sup>76</sup> 【ブランドイメージ】ある商品銘柄などに対して社会や消費者が抱いている印象。ここでは、都市や地域、さらには、そこで創出される産品やサービスなどに対する印象をいう。

<sup>77</sup> 【粗付加価値率】粗付加価値額（販売額から原材料費を差し引いた額）を売上額で除したもの。

かしながら、産業の高度化や道産品の付加価値<sup>78</sup>の向上を図っていく必要があります。

図1-6 食料品製造業における粗付加価値率（平成22年中）



<資料> 経済産業省「工業統計調査」

北海道の豊かな自然や風土・気候、安全・安心を背景とした札幌の食の魅力を生かして、食関連産業の基盤を強化し、産業間の連携を促進するとともに、新たな価値の創造から道外販路の確保までを支援します。さらに、関連する企業や人材を道内外から誘致し、集積を図ることにより、食分野における産業の高度化を図ります。

### <主な取組>

#### ●食関連産業の基盤を強化し、産業間の連携を促進します。

##### 【食を中心としたプラットフォーム<sup>79</sup>機能の構築】

###### ○安全・安心の確保によるブランド力向上

札幌の食のブランド力を高めるため、食の「安全・安心」の確保に向けた取組を一層推進します。



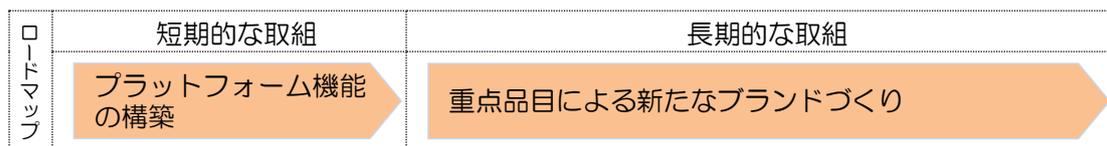
###### ○コーディネート機能の構築

新たな製品・技術の開発を推進するため、企業間や産業間、さらには産・学・官のコーディネート機能を構築し、お互いの技術や強みを生かした食関連産業同士の連携や、食関連産業と他産業との連携を促進します。



###### ○試験・試作支援機能などの充実

重点品目（米、小麦、乳製品等）による新たなブランドづくりを進めるため、試験・試作支援機能や事業提案機能などの充実を図ります。



<sup>78</sup> 【付加価値】 生産過程で新たに付け加えられる価値。総生産額から原材料費と機械設備などの減価償却分を差し引いたもの。

<sup>79</sup> 【プラットフォーム】 ここでは、総合的な支援体制整備を目指した基礎、基盤や中間支援の仕組みをいう。

## ●新たな価値の創造から道外販路の確保までを支援します。

### 【機能性等に着目した研究開発などの支援】

道産品の付加価値の向上を図るため、医薬や機能性食品<sup>80</sup>の研究開発や、鮮度保持技術の実用化などを支援します。



### 【アジアを始めとした海外展開の支援】

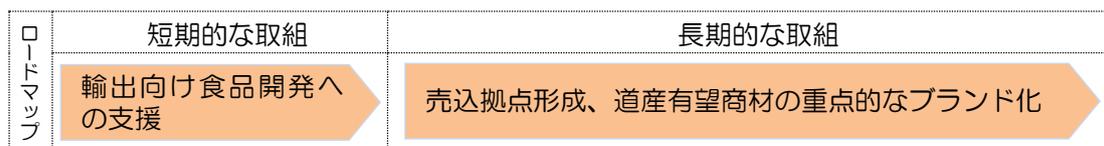
#### ○商品開発支援と輸出の拡大

企業の海外展開・販路拡大を推進するため、輸出向け食品の開発を支援するとともに、国際貨物輸送の強化や海外有望市場における食の販売と情報発信を行う拠点の形成により、輸出の拡大を図ります。



#### ○海外プロモーションの強化

道産食品の重点的なブランド化を図るため、札幌コンテンツ特区<sup>81</sup>を活用するなど、北海道の食の海外プロモーションを一層強化します。

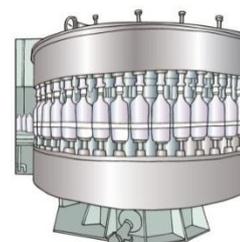


## ●道内外からの食関連企業の誘致、集積を促進します。

### 【北海道フード・コンプレックス国際戦略総合特区<sup>82</sup>の活用】

#### ○食関連産業の集積

札幌における食品産業の付加価値を高めるため、特区の税制優遇などを活用しながら、東雁来流通工業系業務地区<sup>83</sup>などへ食料品・機能性食品製造業を誘致し、食関連産業の企業集積を促進します。



#### ○補完技術の誘致促進

食品産業の生産性を高めるため、食関連技術のうち、ボトリング（瓶詰め）などの道内において十分に対応できていない部分を補完する企業の誘致を重点的に進めます。

<sup>80</sup> 【機能性食品】 一般的に、人間の健康、身体能力、心理状態に好ましい影響を与える働きが科学的に明らかにされた食品。

<sup>81</sup> 【札幌コンテンツ特区】 札幌のアジアにおける映像産業の拠点化を目指し、平成 23 年(2011 年)に国から指定を受けた地域活性化総合特区。アジアにおける映像コンテンツの国際共同制作・国際共同流通・共同人材育成などを進めることで、札幌・北海道の観光や貿易を始めとした多様な産業に波及する循環を創出し、地域全体の活性化を図る。

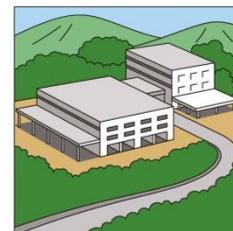
<sup>82</sup> 【北海道フード・コンプレックス国際戦略総合特区】 食料供給基地である北海道ならではの『食の総合産業』の確立により国際競争力を強化し、東アジアにおける食産業の研究開発・輸出拠点化を目指す国際戦略総合特区。平成 23 年(2011 年)に札幌・江別地区、帯広・十勝地区、函館地区の3つのエリアで国から指定を受けている。

<sup>83</sup> 【東雁来流通工業系業務地区】 交通利便性を活かした流通運輸関連、軽工業関連施設及び沿道サービス施設等の立地を進める地区。

ロードマップ	短期的な取組	長期的な取組
	特区を活用した食関連企業誘致	食関連企業や研究機関等の集積促進

### 【近隣自治体と連携した企業誘致】

札幌圏<sup>84</sup>域に、北海道の強みを生かせる食・バイオ分野などの企業の更なる集積を図り、付加価値を創出しやすい環境を整えるため、近隣自治体と連携して、積極的な企業誘致活動を展開します。



ロードマップ	短期的な取組	長期的な取組
	近隣自治体と連携した企業誘致	札幌圏域への企業集積の促進

### <成果指標>

指標選定の考え方	指 標	現状値	目標値
市内食料品製造業の集積状況を示す指標	食料品製造業の製造品出荷額等	2,053 億円 (平成 22 年度)	2,400 億円 (平成 34 年度)
市内食料品製造業の粗付加価値創出の取組状況を示す指標	食料品製造業の粗付加価値額	782 億円 (平成 22 年度)	940 億円 (平成 34 年度)

## 4-② 魅力あるまちづくりと観光振興の一体的推進

### 現状分析と施策の方向性～SWOT分析より～（参考資料2参照）

札幌市内の総観光消費額は 3,576 億円（平成 23 年度（2011 年度））であり、重要な産業の一つとなっています。その一方で、平成 23 年度（2011 年度）の来札観光客数は 1,216 万 5 千人となり、平成 18 年度（2006 年度）の 1,410 万人 4 千人をピークに 13.7%減少しています。

こうした中、全国的にも優位性のある北海道の観光資源を生かしながら、道内連携等を通じた交流人口の拡大などにより、観光振興を図っていく必要があります。



<sup>84</sup> 【札幌圏】ここでは、行政、経済、環境などの様々な分野において、札幌市と結び付きの強い近隣市町村をまとめて指す呼び名。

自然、食、文化芸術、スポーツなど、札幌らしい魅力資源を磨き、観光関連産業同士の連携を生むことで新たな都市観光を創造します。さらに、「北海道のショーケース」として道内各地の魅力が集まることを生かし、来訪者の集客・再訪、周遊・滞在を促進し、札幌・北海道の観光消費の拡大、付加価値の向上を図ります。

## <主な取組>

### ●札幌らしい新たな都市観光を創造します。

#### 【魅力資源の発掘・創出・活用】

##### ○観光まちづくりプランの策定

観光を通じて、市民や来訪者が豊かな生活や体験を実現できるまちづくりを進めるため、観光振興の取組の方向性を示す「観光まちづくりプラン」を策定します。

##### ○観光関連産業同士の連携促進

札幌の都市ブランドの価値を高めるため、自然、食、文化芸術、スポーツを始めとした札幌らしい魅力を再発見し、磨き上げるとともに、観光関連産業同士の連携を促進することで、こうした魅力を観光プログラムに活用します。

##### ○観光資源と周辺地域の総合的なマネジメント

市民にも来訪者にも魅力的なまちづくりを進めるため、外国人観光客のニーズに合致した観光資源の発掘・創出を図るとともに、既存の観光資源（定山渓、芸術の森、藻岩山、モエレ沼公園・さとらんど、歴史的建造物等）と周辺地域を含めたまちづくりを総合的にマネジメントします。



	短期的な取組	長期的な取組
ロードマップ	プラン策定	プランに基づく取組の展開
	魅力の再発見、観光関連産業同士の連携	観光関連産業同士の連携促進
	観光資源の発掘・創出	既存の観光資源と周辺地域を含めたまちづくり

#### 【ターゲットに合わせたプロモーション活動】

##### ○市民力を活用した情報発信

多様なニーズに応じた観光情報を発信するため、ブログ<sup>85</sup>などのソーシャルメディア<sup>86</sup>を活用して、市民、来訪者、観光関連事業者が魅力と感じている観光地や観光施設などの情報を発信し、さらに情報の相互交流を進める、いわゆる口コミによる情報発信の形成を促進します。



<sup>85</sup> 【ブログ】 ウェブ上の記録を意味する「ウェブログ」の略。個人の日記などを簡便な方法で作成し、公開することができるウェブサイトの総称。

<sup>86</sup> 【ソーシャルメディア】 SNS、ブログなど、インターネットを利用して個人間のコミュニケーションを促進するサービスの総称。

### ○海外プロモーションの強化

海外からの効果的な集客を図るため、北海道や道内市町村と連携し、タイやインドネシアといった海外有望市場や新興国市場など、国・地域のニーズを捉えたプロモーションを実施するとともに、札幌コンテンツ特区を活用した取組を進めます。

	短期的な取組	長期的な取組
ロードマップ	市民力を活用した情報発信、国・地域別のプロモーション	市民力を活用した情報発信、国・地域別のプロモーションの確立

## ●観光消費の拡大、付加価値の向上を図ります。

### 【道内市町村と連携した観光振興】

道内経済循環の活性化を図るため、道内市町村と連携し、自然を生かした体験型観光メニューを開発するなど、周遊・滞在に結び付く魅力の創出・充実を図ります。

また、交通ネットワークの強化やIT<sup>87</sup>を活用した交通案内等の情報提供機能の充実などにより、訪れた人が道内を含め、周遊しやすい環境づくりを進めます。



	短期的な取組	長期的な取組
ロードマップ	道内連携やITを活用した周遊促進	交通ネットワーク強化による周遊の促進

### 【外国人観光客の受入環境の向上】

#### ○無線通信環境の充実

都心や主要な観光施設などにおける利便性を向上させるため、外国人観光客からのニーズが高い無線通信環境の充実を図ります。

#### ○多言語対応の促進

外国人観光客の満足度を向上させるため、交通機関・飲食・商業施設などにおける多言語対応を促進します。



#### ○配慮が必要な外国人観光客の受入環境向上

多様な文化圏からの集客を図るため、食における制限など、生活習慣などで配慮が必要な外国人観光客の受入環境の向上に取り組みます。

	短期的な取組	長期的な取組
ロードマップ	無線通信環境の向上、多言語対応の促進	効率的・効果的な無線通信環境・多言語対応の確立
	多様な文化圏からの外国人観光客への対応手法の普及促進（特定地域）	多様な文化圏からの外国人観光客への対応施設やサービスの充実と対象地域の拡大

<sup>87</sup> 【IT】 インフォメーション・テクノロジーの略。情報処理、情報技術。

## 【観光関連サービスの質的転換の促進】

来訪者の満足度の向上や、一人当たり観光消費額の増加を図るため、宿泊、飲食、観光施設等における富裕層向けの質の高いサービスの提供など、付加価値の向上を図る取組を支援し、質的転換を促進します。



ロードマップ	短期的な取組	長期的な取組
	効果的な支援手法の検討、実施	具体的な支援の展開、更なる検討

## 【札幌・北海道の強みを生かしたMICE<sup>88</sup>の誘致】

### ○MICE向けコンテンツの開発

多様なMICE誘致に活用するため、札幌・北海道の独自性を生かしたユニークベニュー<sup>89</sup>やチームビルディング<sup>90</sup>などのプログラムを開発します。



### ○誘致強化と推進体制の充実

観光の付加価値の向上を図るため、多様な国際会議などの誘致に取り組むとともに、インバウンド<sup>91</sup>や、MICE誘致を推進するコンベンションビューロー<sup>92</sup>を始めとする推進体制の充実を図ります。

ロードマップ	短期的な取組	長期的な取組
	ユニークベニューやチームビルディングの開発 インバウンドやMICE推進体制の強化	ユニークベニューやチームビルディングを活用した誘致推進 MICE誘致の強化に向けた方策の確立と推進

## <成果指標>

指標選定の考え方	指標	現状値	目標値
観光地としての魅力、受入環境の充実度などを示す指標	観光地としての総合満足度 （「満足」と回答した人の割合）	27.0% （平成24年度）	40% （平成34年度）
集客交流の札幌市経済に対する貢献度を示す指標	札幌市内での総観光消費額	3,576億円 （平成23年度）	4,700億円 （平成34年度）

<sup>88</sup> 【MICE】多くの集客交流が見込まれるビジネスイベントなどの総称で、Meeting（会議・セミナー）、Incentive Travel(Tour)（企業報奨・研修旅行）、Convention（大会・学会・国際会議）、Exhibition（イベント・展示会・見本市）の頭文字のこと。

<sup>89</sup> 【ユニークベニュー】 個性的・独創的なパーティ会場（例：モエレ沼公園ガラスのピラミッド、大倉山ジャンプ競技場）。

<sup>90</sup> 【チームビルディング】 チームワークを高めるために競い合うプログラム（例：雪だるま装飾コンテスト）。

<sup>91</sup> 【インバウンド】 外国人旅行者を自国へ誘致することの意。

<sup>92</sup> 【コンベンションビューロー】 公益財団法人札幌国際プラザの主要事業部門のひとつ。コンベンション（大会・学会・国際会議）誘致やコンベンション関連産業の振興等を行う。

## 4-③ エネルギー転換に対応した環境産業の創造

### 現状分析と施策の方向性～SWOT分析より～（参考資料2参照）

環境問題は今後社会全体が一丸となって取り組むべき課題であることに加え、福島第一原子力発電所の事故を境に、エネルギー転換を求める住民意識が高まっています。こうした機会を捉え、エネルギー転換を推進する環境産業の創出に取り組むとともに、再生可能エネルギー<sup>93</sup>施設の誘致や集積を図るなど、環境分野における新たな価値を創造する産業を育成する必要があります。

▼

エネルギー転換の進展に伴って生じるエネルギー消費の在り方などの地域課題の解決に向けて、省エネルギー・創エネルギー<sup>94</sup>・蓄エネルギー<sup>95</sup>やエネルギーマネジメント<sup>96</sup>といったエネルギー関連技術の産業化を推進します。さらに、関連する技術の集積や企業誘致により、環境分野における新たな価値を創造する産業を振興します。

#### <主な取組>

#### ●エネルギー関連技術の産業化を推進します。

##### 【先進的な技術に関する研究開発や実用化の推進】

##### ○研究開発や実用化の支援

積雪寒冷技術の産業化を推進するため、産・学・官連携により、高断熱・高気密住宅関連技術や未利用熱（雪氷冷熱、換気排熱）活用技術の高度化などの研究開発や実用化を支援します。



##### ○再生可能エネルギー創出関連技術などの研究開発支援

再生可能エネルギーなどの産業化を推進するため、恵まれた自然資源を活用した太陽光、風力、地熱、バイオマス<sup>97</sup>などの再生可能エネルギー創出関連技術や、それらのエネルギーを蓄える技術の研究開発や事業化に取り組む企業を支援します。

	短期的な取組	長期的な取組
ロードマップ	積雪寒冷技術、再生可能エネルギー創出関連技術の研究開発支援	積雪寒冷技術、再生可能エネルギー創出関連技術の研究開発・製品化・事業化支援

<sup>93</sup> 【再生可能エネルギー】 太陽光、風力、地熱など、一度使用しても再び同じ形態で利用することのできるエネルギーの総称。  
<sup>94</sup> 【創エネルギー】 太陽光発電を始めとする再生可能エネルギーなどを活用して、エネルギーを創り出すとともに、節電などによりエネルギー消費量を削減すること。  
<sup>95</sup> 【蓄エネルギー】 蓄電池などを利用してエネルギー（電気・冷温熱等）を貯めておくこと。天候等に発電量が左右されやすい再生可能エネルギーと組み合わせることで、安定供給が可能となる。  
<sup>96</sup> 【エネルギーマネジメント】 情報通信技術（ICT）を活用して、家庭・オフィスビル・工場などのエネルギー（電気・ガス等）の使用状況をリアルタイムに把握・管理し、最適化するシステム。  
<sup>97</sup> 【バイオマス】 動植物に由来する生物資源の総称。

**【関連システムや機器などの導入促進】**

メンテナンス等を含めた関連産業全体の振興を図るため、民生部門<sup>98</sup>のエネルギーマネジメントや産業部門のスマートファクトリー<sup>99</sup>化に関連するシステムや機器などの導入を促進します。

ロードマップ	短期的な取組	長期的な取組
	関連システムや機器などの導入促進	効率的なエネルギー利用の促進に伴う関連産業の振興

**●エネルギー関連技術の集積や企業誘致を図ります。**

**【再生可能エネルギー関連設備などの集積】**

○大規模施設の設置促進

環境関連産業の活性化を図るとともに、都市内でのエネルギー供給の補完性を高めるため、大規模な再生可能エネルギーシステムの設置を支援します。



○実証実験への支援

積雪寒冷地における再生可能エネルギーに関する技術を確認し、普及拡大を図るため、発電効率の検証や蓄電池を組み合わせたシステムなどに関する実証実験を支援します。

**【広域的なエネルギー関連企業などの誘致推進】**

エネルギーの地産地消<sup>100</sup>を進めるため、道内市町村と連携して、再生可能エネルギー・スマートグリッド<sup>101</sup>などの技術に関する研究開発や製造を行う企業の誘致を推進し、企業集積を図ります。



ロードマップ	短期的な取組	長期的な取組
	再生可能エネルギー関連設備等の集積	再生可能エネルギー関連企業等の広域的な集積の推進

**<成果指標>**

指標選定の考え方	指 標	現状値	目標値
新分野進出等に関する企業の取組状況を示す指標	新製品・新技術の開発や新分野進出に取り組むと答える企業の割合	58.1% (平成 24 年度)	75% (平成 34 年度)
新たな価値を創造するベンチャー企業の集積状況を示す指標	大学発ベンチャー企業 <sup>102</sup> 数 (環境・エネルギー)	21 社 (平成 23 年度)	30 社 (平成 34 年度)

<sup>98</sup> 【民生部門】 エネルギー消費量や温室効果ガス排出量のうち、自家用自動車などの運輸関係を除く家庭からのものと、企業の管理部門などの事務所、ホテル、百貨店、サービス業等の第三次産業などによるものを合わせたものを示す際に使用する表現。

<sup>99</sup> 【スマートファクトリー】 工場内の機器をネットワークで結ぶことなどにより、様々な情報を「見える化」し、エネルギーの効率的利用を可能にした工場のこと。

<sup>100</sup> 【地産地消】 地域生産・地域消費の略語で、地域で生産された様々な生産物や資源をその地域で消費すること。

<sup>101</sup> 【スマートグリッド】 電力の流れを供給側・需要側の両方から制御し、最適化できる送電網。

<sup>102</sup> 【ベンチャー企業】 起業家精神に富み、新たな商品やサービスの開発といった創造的な事業活動に取り組む企業。

## 4-④ 超高齢社会に対応した健康・福祉産業の創造

### 現状分析と施策の方向性～SWOT分析より～（参考資料2参照）

高齢者の増加に伴い、健康福祉分野の市場が拡大することが見込まれます。また、札幌市内におけるバイオ産業<sup>103</sup>の売上げは313億円（平成23年度（2011年度））となるなど年々増加しているほか、市内には大学などの研究機関が集積しています。

これらの地域資源を生かし、今後の高齢化の更なる進行に伴って生じる需要や課題への対応に向けて、健康・福祉産業を振興していく必要があります。

人口減少・超高齢社会の進行に伴って生じる需要や課題への対応に向けて、健康・福祉関連のものづくり・サービス産業を振興するとともに、医療・医薬、機能性食品などの研究開発を促進します。さらに、先端医療技術を活用することにより、健康・福祉分野における新たな価値を創造する産業を振興します。

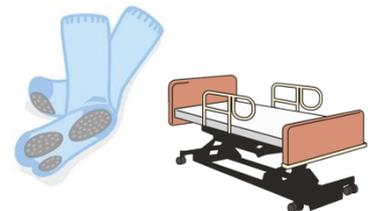
### <主な取組>

#### ●健康・福祉関連の産業を振興します。

##### 【高齢者を中心とした多様な世代に向けた産業の振興】

##### ○技術研究や商品化の支援

健康・福祉関連産業の育成・強化を図るため、介護や看護などに関わるものづくりの技術研究や商品化を支援します。



##### ○ウェルネス・サイエンス<sup>104</sup>の推進

健康・福祉関連産業の裾野を広げるため、市場の成長が期待される生活・健康分野におけるウェルネス・サイエンスの実用化を大学や研究機関と協力しながら推進します。



##### ○医食農IT連携の推進

健康や生活の質への関心の高まりによる新たなニーズを取り込むため、医療と食・農業をIT技術によって連携させる新たな産業を育成します。

	短期的な取組	長期的な取組
ロードマップ	技術研究や商品化の支援	技術研究や商品化、販路拡大の支援
	医食農IT連携モデルづくり	医食農IT連携の推進

<sup>103</sup> 【バイオ産業】 バイオテクノロジー技術を応用して商品開発を行う産業。

<sup>104</sup> 【ウェルネス・サイエンス】 ここでは、個人や集団の最適な健康状態実現や生活の質の向上を図ることで、地域社会の活性化等を目指す新たな研究をいう。

## ●医療・医薬、機能性食品などの研究開発を促進します。

### 【バイオ関連企業の研究開発への支援】

#### ○研究開発への支援

北海道・札幌市が優位性を持つ豊富な食資源や大学・研究機関等の知の集積を背景としたバイオビジネス<sup>105</sup>によって、新たな需要を取り込むため、北海道大学北キャンパス<sup>106</sup>等において行われている、医療・医薬や機能性食品などの研究開発を支援します。



#### ○他産業や試験研究機関との連携促進

バイオ関連商品などの開発を支援するため、エレクトロニクスセンター<sup>107</sup>のウェットラボ<sup>108</sup>化によるバイオ産業とIT産業<sup>109</sup>の連携や、道立総合研究機構等の試験研究機関の活用などを促進します。

#### ○近隣自治体と連携したバイオ関連企業の誘致

バイオ関連企業の集積を促進し、研究開発機能の高度化を図るため、近隣自治体と連携した企業誘致を行います。

	短期的な取組	長期的な取組
ロードマップ	研究開発への支援 試験研究機関の活用	バイオ関連企業の集積促進

## ●先端医療技術を活用して、新たな価値を創造します。

### 【先端医療技術を活用した産業の振興】

#### ○研究開発型企业への支援

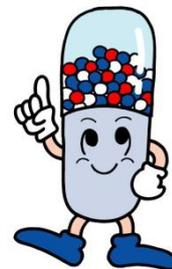
新たな価値の創出と関連産業の活性化を図るため、医療関連の素材・機器などの研究開発型企业を支援します。

#### ○臨床や学術研究と産業のコーディネート機能の構築

市内関連企業の高度化を図るため、先端医療現場と企業をつなぎ、医学、工学、薬学の融合を図るコーディネート機能の構築を推進します。

#### ○医療とITの連携促進

今後更なるニーズが見込まれる遠隔医療などの分野の産業を振興するため、医療とITの連携を促進し、利便性の高いサービスの創出を図ることで、新たな市場を開拓していきます。



<sup>105</sup> 【バイオビジネス】生物の持つ機能を上手に利用する技術であるバイオテクノロジー技術を応用して商品開発を行う産業。

<sup>106</sup> 【北海道大学北キャンパス】北海道大学の北キャンパス周辺エリアを指し、研究開発等の集積が進んでいる。

<sup>107</sup> 【エレクトロニクスセンター】情報産業の企業集積を目的に、全国に先駆けて分譲を開始した研究開発型企业団地「札幌テクノパーク」(厚別区下野幌)のセンター施設として、昭和61年(1986年)に開設。立地企業のサポート、技術者の交流や企業の技術連携支援、高度IT人材の育成、市内IT企業のグローバル化促進などを実施。

<sup>108</sup> 【ウェットラボ】生物化学系の実験を行うため、液体を取り扱えるように、換気機能や給排水などの設備が整備された試験・研究室。

<sup>109</sup> 【IT産業】情報処理、情報技術に関連する産業の総称。

ロードマップ	短期的な取組	長期的な取組
	コーディネート機能の構築	先端医療の関連産業の振興

### <成果指標>

指標選定の考え方	指 標	現状値	目標値
新分野進出等に関する企業の取組状況を示す指標 【再掲 40 ページ】	新製品・新技術の開発や新分野進出に取り組むと答える企業の割合	58.1% (平成 24 年度)	75% (平成 34 年度)
道内バイオ産業の景況感を示す指標	バイオ産業の売上高	313 億円 (平成 23 年度)	730 億円 (平成 34 年度)

## 10年後の目指すべき姿

創造性を生かした産業活動の推進や、国際戦略・シティプロモートの積極的な展開により、道内循環が高まるとともに、道外需要を積極的に取り込んでいます。また、こうした取組に併せて、札幌を含めた道央圏、さらには北海道全体の連携による都市競争力を強化するための基盤づくりが進んでいます。

パラダイム  
シフト

実現するために変わります！

### 国内外の活力を取り込む環境整備

- ◆海外需要を取り込むための国際戦略の推進
- ◆広域的な交通ネットワークの充実



## 5-① 世界の活力を取り込む国際戦略の積極展開

### 現状分析と施策の方向性～SWOT分析より～（参考資料2参照）

札幌市の人口は減少局面に入ると想定されています。また、人口に占める外国人の割合は0.5%で、全国平均1.6%を下回っており、（平成23年（2011年））、外国人留学生の数も政令指定都市<sup>110</sup>の中で9位と多くない状況にあります（平成23年（2011年））。

こうした中、人口減少社会の到来を踏まえ、アジアや北方圏を中心とした世界の活力を取り入れ、経済の活性化を図っていくためには、国際化を積極的に進めていく必要があります。

<sup>110</sup> 【政令指定都市】人口50万人以上の市で、地方自治法第252条の19の規定に基づいて政令によって指定されたもの。

中小企業の海外ビジネス展開や海外からの集客を図るため、アジアや北方圏の経済発展地域に対するマーケティング<sup>111</sup>活動の促進やMICE誘致などを強化するとともに、企業や市民の国際化を促進するための仕組みを強化します。

＜主な取組＞

●**アジアや北方圏に対するマーケティング活動やMICE誘致の強化を進めます。**

【強みを生かした海外展開の促進やMICEの誘致】

○企業マッチングなどの実施

食関連企業や積雪寒冷地向けの製品・技術を持つ企業等による、アジアや、ロシアを始めとする北方圏への海外展開を支援するため、札幌市、北海道や地元金融機関などの海外拠点の活用を通じて、企業マッチングなどを実施します。



○国際協力の促進

経済分野も含めた多様な交流を推進するため、環境保全や教育、保健衛生など、幅広い分野における海外研修生の受入れや開発途上国への技術者派遣などを通じた国際協力を促進します。



○MICE向けコンテンツの開発（再掲 38 ページ）

○誘致強化と推進体制の充実（再掲 38 ページ）

	短期的な取組	長期的な取組
ロードマップ	企業マッチングなどの実施	企業マッチングを含む多様な支援の実施

【国際戦略プランの策定と実効性のある展開】

国際戦略を総合的に推進するため、今後の国際戦略の方向性を示す「国際戦略プラン」を策定するとともに、その実効性を高めるため、「官民連携国際実務者会議」を設置します。また、関係部局で組織する国際戦略推進本部を設置し、横断的な連携による海外シティプロモートを展開するなど、国際情勢の変化に柔軟に対応する取組を進めます。



	短期的な取組	長期的な取組
ロードマップ	国際戦略プラン策定	横断的な連携による海外シティプロモートの展開など、国際戦略プランに基づく取組の展開

<sup>111</sup> 【マーケティング】 企業や非営利組織が行うあらゆる活動のうち、「顧客が真に求める商品やサービスを作り、その情報を届け、顧客がその商品を効果的に得られるようにする活動」の全てを表す概念。

## ●企業や市民の国際化を促進する仕組みづくりを進めます。

### 【グローバル人材の育成・就業支援】

#### ○海外経験などの促進

世界の舞台に積極的に挑戦し、活躍できるグローバル人材を育成するため、研修や留学などに関する情報提供をきめ細やかに行うことで、若い頃からの海外経験を促すとともに、セミナーなどを通じて多様な文化に触れる機会を提供します。



#### ○グローバル人材の就業支援

企業の国際競争力を高めていくため、外国人留学生の誘致や道内への就業促進に向けた支援のほか、海外経験のある日本人学生と企業の就職マッチングを進めるなど、グローバル人材の就業を支援します。

ロードマップ	短期的な取組	長期的な取組
	留学生などの就業支援ニーズの把握と支援方策の検討	留学生などの市内・道内企業への就業促進に向けた支援の強化

### 【外国人が活動しやすい環境づくり】

外国人の就業や起業<sup>112</sup>、さらには外国企業の活動の活性化を促進するため、在住外国人のニーズを踏まえた生活・医療・教育支援を強化するなど、生活環境の整備を進めます。



ロードマップ	短期的な取組	長期的な取組
	外国人が活動しやすい環境づくり、ニーズの把握と支援方策の検討	外国人が活動しやすい環境づくりに向けた支援の強化

## <成果指標>

指標選定の考え方	指 標	現状値	目標値
グローバル化に対する企業の取組状況を示す指標	グローバル化 <sup>113</sup> への取組を行っている企業の割合	8.7% (平成 24 年度)	45% (平成 34 年度)
集客交流の要素の一つであるMICEの振興度合いを示す指標	国際会議の開催件数	83 件 (平成 23 年度)	120 件 (平成 34 年度)

<sup>112</sup> 【起業】新しく事業を始めること。

<sup>113</sup> 【グローバル化】ヒト、モノ、カネ、情報の国境を越えた移動が地球規模で盛んになり、政治や経済など様々な分野での境界線が無くなることで、相互依存の関係が深まっていく現象。

## 5-② 創造性を生かしたイノベーションの誘発

現状分析と施策の方向性～SWOT分析より～（参考資料2参照）

札幌市内には、IT、コンテンツ、バイオなどの特色ある産業が集積しているという特性があります。

これらの産業を相互に結び付けることにより、新たな価値を生み出すためのイノベーションを誘発することが期待できます。

創造的なものづくりにチャレンジするベンチャー企業や起業家を生み育てるとともに、優れたデザイナー、クリエイター<sup>114</sup>、アーティストなどを輩出する環境を生かし、文化芸術などの創造的な活動と食・環境・健康・福祉分野などの多様な地場産業<sup>115</sup>との交流を促進することにより、イノベーションを誘発します。

### <主な取組>

#### ●創造的なものづくりにチャレンジする起業家を育成します。

##### 【新たな働き方への支援とインキュベーション機能<sup>116</sup>の強化】

起業を促進するため、コワーキング<sup>117</sup>などの新たな働き方への支援を行うとともに、インキュベーション施設の有効活用やインキュベーションマネージャーの育成を支援します。



	短期的な取組	長期的な取組
ロードマップ	コワーキングなど新たな働き方の可能性や連携の在り方の検討	新たな働き方の支援を通じた起業促進 インキュベーション機能の充実（施設の有効活用、インキュベーションマネージャーの育成支援）

##### 【創造性を有する組織・人材による産業化の取組などの推進】

新たな価値を生み出し、国内外の需要を取り込むことができるクリエイティブ産業<sup>118</sup>の創発や人材育成を推進するため、ICC<sup>119</sup>



<sup>114</sup> 【クリエイター】 創造的な仕事をしている人。作家。制作者。

<sup>115</sup> 【地場産業】 ここでは、地域の素材・資源を利用して特産品を製造したり、サービスを提供したりする産業をいう。

<sup>116</sup> 【インキュベーション機能】 起業の支援や創業間もない企業、中小企業の事業が軌道に乗るように支援する機能のこと。技術、人材、資金等の支援を行うインキュベーション施設の提供や事業計画の作成、事業戦略、特許管理のノウハウの提供などにより支援を行う。

<sup>117</sup> 【コワーキング】 各個人が独立して働きつつも、働く場所を共有することで、アイデアや情報を交換し、協働して新たなビジネスを生み出していく仕事の仕方。

<sup>118</sup> 【クリエイティブ産業】 ここでは、個人の創造性や技能・才能に由来し、また、知的財産権の開発を通じて富と雇用を創造する産業をいう。

<sup>119</sup> 【ICC】 インタークロス・クリエイティブ・センターの略。コンテンツ産業の振興を目的として、クリエイターや企業などの新たなビジネスの創出を支援する施設。

や札幌市立大学を始めとした高等教育機関などの創造性を有する様々な組織・人材による産業化の取組などを推進します。

ロードマップ	短期的な取組	長期的な取組
	様々な組織・人材によるアートやコンテンツの産業化、プロジェクト展開	クリエイティブ産業の創発

## ●創造的な活動と地場産業の交流を促進します。

### 【札幌コンテンツ特区の活用】

#### ○映像のプロモーション効果の活用

観光客やMICEの誘致、地場商品の販路拡大などを複合的かつ効果的に推進するため、札幌で撮影された商品や景色などの映像が広く海外で視聴されることによるプロモーション効果を活用した事業を展開していきます。



#### ○独自の資格制度の創設

札幌で多くの映像が撮影される環境づくりを進めるため、撮影現場などで総合的な安全管理を行う札幌市独自の資格制度を創設します。

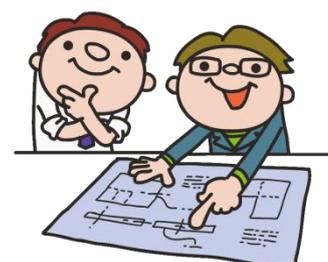
#### ○資金調達支援やスタジオ誘致などの推進

札幌の魅力を発信する映像制作を促進するため、クラウドファンディング<sup>120</sup>等の多様な資金調達支援やスタジオ誘致などの取組を推進します。

ロードマップ	短期的な取組	長期的な取組
	映像を活用した観光客やMICEの誘致、商品の販路拡大	資金調達支援やスタジオ誘致の推進
	資金調達支援方法の検討	

### 【文化芸術とビジネスの交流促進】

文化芸術の産業化を目指した取組を推進するため、市民交流複合施設<sup>121</sup>内に設置する(仮称)アートセンターや札幌国際芸術祭<sup>122</sup>を始めとした様々なイベント等を活用しながら、芸術家とものづくり企業などの多様な企業との交流や連携を促進します。



<sup>120</sup> 【クラウドファンディング】不特定多数の人が、他の人々や組織に財源の提供や協力等を行うこと。

<sup>121</sup> 【市民交流複合施設】多様な文化芸術活動の中心的な拠点として、高機能ホール、アートセンター、都心にふさわしい図書館の3つの機能を備えた施設の整備を、北1西1街区で実施する市街地再開発事業に合わせて実施する予定。平成30年度の供用開始を目指す。

<sup>122</sup> 【札幌国際芸術祭】「創造都市さっぽろ」のシンボリックなイベントとして、「都市と自然」を基本方針として、平成26年度に初めて開催する芸術祭。3年ごとの定期的な開催を目標としている。



### <成果指標>

指標選定の考え方	指 標	現状値	目標値
IT・コンテンツを活用した経営改善に対する企業の意識を示す指標	IT・コンテンツを活用して高付加価値をつけようと思っている企業の割合	13.2% (平成 24 年度)	20% (平成 34 年度)
クリエイティブ産業の集積を示す指標	クリエイティブ産業の従事者数	37,390 人 (平成 21 年度)	39,000 人 (平成 34 年度)

## 5-③ 広域連携ネットワークの強化と投資環境の充実

### 現状分析と施策の方向性～SWOT分析より～（参考資料2参照）

札幌周辺には新千歳空港や石狩湾新港などの広域的な交通インフラが整備されているという利点があります。

これらの基盤と札幌をつなぐ交通ネットワークを一層強化することで、道内外のヒト、モノの流れを更に活性化するとともに、企業集積や様々な投資を受け入れるための環境整備を行っていくことが必要です。



道内の産業間の連携を深めるとともに、道央圏における主要な空港や港湾などとの交通ネットワークを強化し、道内外とのヒト・モノ・情報の流れを活性化します。

また、こうした取組に併せて、道都・札幌の都心の魅力づくりや、バックアップ機能<sup>123</sup>の誘致、国内外からのものづくり機能の集積を促すための環境づくりを推進し、北海道全体の発展に貢献していきます。

### <主な取組>

#### ●道内外とのヒト・モノ・情報の流れを活性化します。

##### 【道内の産業間連携の促進】

産業の高度化を図るため、道内資源を有機的に活用する6次産業化<sup>124</sup>や、滞在型観光<sup>125</sup>などの

<sup>123</sup> 【バックアップ機能】特に東京圏を中心とした場所に存する中枢機能の継続が何らかの原因により不可能となる事態が発生した場合に、これを代替する機能。

<sup>124</sup> 【6次産業化】第1産業、第2次産業、第3次産業を融合させ、新たな産業振興を行うという考え方。

<sup>125</sup> 【滞在型観光】一箇所に滞在し、滞在地で静養や体験型を始めとしたレジャーを楽しむこと、又はそこを拠点に周辺の観光を楽しむレジャー形態のこと。

観光分野における道内連携、さらには、広域連携による再生可能エネルギーの活用など、あらゆる産業分野における道内連携を促進します。

**【広域的な交通ネットワークの充実】**

○新幹線や道路網の整備推進

国内の人の流れを活性化し、経済効果を道内や市内に循環させていくため、北海道新幹線の札幌延伸の円滑な事業推進、早期開業に向けた取組を進めるとともに、骨格道路網<sup>126</sup>や地域間をつなぐ幹線道路などの未整備区間の整備を推進します。また、都心アクセス強化道路<sup>127</sup>軸の検討を国とも連携しながら進めます。



○物流・交通拠点の高度利用の促進

市内、道内への物流循環を活性化するため、大谷地流通業務団地<sup>128</sup>の物流機能の高度化の方向性について検討を進めます。また、道内や国内外からのアクセス性を高め、ヒト・モノ・エネルギーなどの流れを加速させるため、広域的な連携による海外航空路線の拡充促進や関係団体との協働によるプロモーションなどを通じて、丘珠空港、新千歳空港、石狩湾新港の利用促進を図ります。

	短期的な取組	長期的な取組
ロードマップ	道内の産業間連携の促進	道内連携による食、観光、エネルギー産業の高度化の推進
	物流拠点高度化の必要性やニーズの把握	物流拠点高度化に向けた機能再構築の検討、推進

**●道都・札幌の都心の魅力づくりに取り組めます。**

**【札幌駅交流拠点<sup>129</sup>の整備方針の策定】**

北海道新幹線の札幌延伸を見据え、国内外からの来客を迎える札幌駅周辺の魅力を高めるため、道内とのアクセスの拠点ともなる札幌駅交流拠点の基本的な整備方針を策定するとともに、北5西1地区の整備検討や地下鉄さっぽろ駅などの再整備を行います。



	短期的な取組	長期的な取組
ロードマップ	札幌駅交流拠点の整備の在り方検討	札幌駅交流拠点の整備に向けた取組

<sup>126</sup> 【骨格道路網】ここでは、都心への不必要な自動車流入の抑制や周辺都市や市内各地域の拠点へ容易に到達でき、それらの拠点相互が有機的に連結するよう計画的に配置した幹線道路網をいう。

<sup>127</sup> 【都心アクセス強化道路】ここでは、都心における渋滞緩和や、全道各地から都心への人やモノの速達性を向上させるために、機能強化などを検討していく道路で、創成川通と豊平川通を指す。

<sup>128</sup> 【大谷地流通業務団地】札幌市白石区流通センター付近に存在する流通業務団地で、交通アクセスの優位性と札幌を中心とした一大消費地を背景に、北海道の広域物流拠点として機能し、現在では札幌都市圏の5分の1、市内の4分の1の貨物を取り扱うなど、北海道の流通経済基地としての役割を担っている。

<sup>129</sup> 【交流拠点】「都心まちづくり計画」と「さっぽろ都心まちづくり戦略」で位置付けている都心の骨格構造の一つで、多様な機能・活動等の集積が見込まれる骨格軸の交点、交流結節点となる札幌駅交流拠点、大通交流拠点、創世交流拠点の3つがある。

## ●企業集積を促す環境づくりを進めます。

### 【札幌の優位性を生かした企業などの誘致】

高度な都市機能の集積を促し、都市としての価値を高めるため、低い災害リスクや冷涼な気候等のメリットを生かして、首都圏に集中する政府機関の災害時のバックアップ拠点機能や民間企業の業務継続のための本社機能などの移転受入れを推進します。また、データセンター<sup>130</sup>などの誘致を進めるとともに、基幹系通信網<sup>131</sup>の整備促進を図ります。



ロードマップ	短期的な取組	長期的な取組
	バックアップ機能の受入れのための環境整備	民間企業の本社機能などの移転誘致の促進

### 【東雁来流通工業系業務地区の整備促進と新たな誘致適地の検討】

札幌の産業構造の多様性と安定性を高めることに寄与するものづくり産業の集積を図るため、東雁来流通工業系業務地区の整備を進めるとともに、新たな誘致適地の在り方を検討します。



ロードマップ	短期的な取組	長期的な取組
	ものづくり機能集積の基本的方向性の検討	ものづくり関連企業の集積に向けた事業展開

## <成果指標>

指標選定の考え方	指 標	現状値	目標値
札幌を含めた広域経済圏企業の輸出に対する取組状況を示す指標	札幌を含めた広域経済圏の輸出額 <sup>132</sup>	1,838 億円 (平成 23 年度)	2,000 億円 (平成 34 年度)
経済・雇用の活性化につなげるための企業誘致の取組状況を示す指標	誘致施策を活用した立地企業数	累計 80 社 (平成 24 年度)	累計 175 社 (平成 34 年度)

<sup>130</sup> 【データセンター】 インターネット用のサーバーやデータ通信などの装置を集中的に設置・運用することに特化した拠点のこと。企業は、データやサーバーなどを預けることで、安定的にシステムを運用することができる。

<sup>131</sup> 【基幹系通信網】 大規模な通信ネットワークにおいて、集線装置間や拠点間、あるいは事業者間、国家間などを結ぶ大容量の通信回線網のこと。

<sup>132</sup> 【広域経済圏の輸出額】 ここでは、函館税関管内のうち、札幌支署、小樽支署、石狩出張所、苫小牧支署及び千歳支署における合計額をいう。

## 5-④ シティプロモート戦略の積極展開

### 現状分析と施策の方向性～SWOT分析より～（参考資料2参照）

札幌は国内でもトップクラスの魅力があるまちとして認識されており、文化芸術活動、都市生活、自然との共生など、札幌ならではのライフスタイルが定着するほか、様々な国際的イベントも行われています。

こうした魅力を市民や来訪者が感じ、世界に発信することで、集客力が強化され、まちの活性化につなげることができます。

創造的な文化芸術活動、豊かな食文化、環境との共生、健康な暮らしなどの札幌ならではのライフスタイルの魅力を市民が感じ、その魅力を高めて世界に発信するシティプロモート<sup>133</sup>の推進や、札幌らしい特色のある国際的なイベントの開催などを通じて集客を図ることにより、札幌の魅力を感じ、発信する人を更に増やしていきます。

#### <主な取組>

#### ●都市の魅力を高めるため、シティプロモートを推進します。

##### 【市民意識の醸成とシティプロモートの展開】

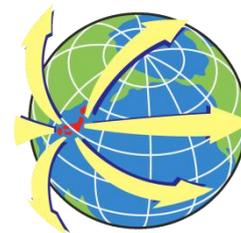
##### ○“SAPP\_RO（サッポロスマイル）笑顔になれる街”<sup>134</sup>の普及推進

市民のおもてなし意識の醸成を図るとともに、市民や企業が、札幌ならではの魅力に誇りを持ち、その魅力を高めて世界に発信していくコミュニティづくりを進めるため、笑顔をキーワードとするシンボルマークの普及促進などを実施します。

SAPP\_RO

##### ○シティプロモートの展開

観光客等の交流人口の増加や企業・人材の誘致等を通じた経済活性化を図っていくため、札幌ならではのライフスタイルの魅力をトップセールスなども活用しながら、効果的に世界に発信するシティプロモートを展開します。



	短期的な取組	長期的な取組
ロードマップ	市民のおもてなし意識の醸成	シティプロモート活動の展開による魅力発信を通じた交流人口の増加や経済活性化

<sup>133</sup> 【シティプロモート】ここでは、まちの魅力を再発見し、創造することで新しい都市の輝きをつくり出すとともに、市民が誇りをもってその魅力を内外に発信することで、世界の人々と多様な関係をつくり出すための一連の活動をいう。

<sup>134</sup> 【SAPP\_RO（サッポロスマイル）笑顔になれる街】札幌市では、シティプロモートのコンセプトに「笑顔、スマイル」を掲げ、その象徴として、「SAPP\_RO」（サッポロスマイル）のシンボルマークを作成。食や自然、四季折々の様々なイベントなど、多くの魅力的な資源に恵まれた「笑顔になれる街」札幌を表現している。

## ●札幌の魅力を感じ、発信する人を更に増やします。

### 【札幌ならではの特色を生かした取組の推進】

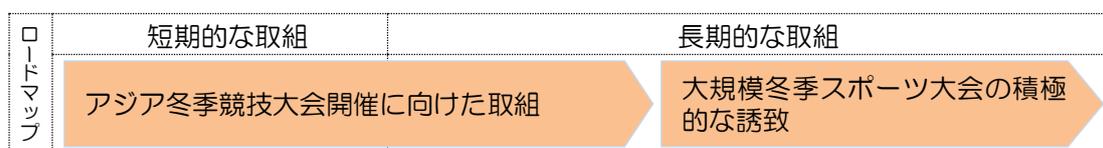
#### ○冬季スポーツ大会の誘致や冬のイベントの魅力向上

札幌ならではのライフスタイルや冬の魅力を体感し、その魅力を発信する人を増やすため、雪まつりなど既存の冬のイベントの魅力の向上や、2017年アジア冬季競技大会の開催、さらには、国際的な知名度を高める冬季スポーツ国際大会の誘致を推進します。



#### ○国内外の創造都市相互の交流・連携の促進

国際的な都市ブランドの価値と魅力を高めていくため、ユネスコ創造都市ネットワーク<sup>135</sup>のメディアアーツ<sup>136</sup>分野への加盟や札幌国際芸術祭の定期開催などを通じて、海外との交流・連携やクリエイティブ人材<sup>137</sup>の誘致を進めます。



### <成果指標>

指標選定の考え方	指標	現状値	目標値
観光地としての魅力、受入環境の充実度などを示す指標【再掲 38 ページ】	観光地としての総合満足度（「満足」と回答した人の割合）	27.0% （平成 24 年度）	40% （平成 34 年度）
集客交流の状況を示す指標	年間来客数	1,216 万人 （平成 23 年度）	1,500 万人 （平成 34 年度）

<sup>135</sup> 【ユネスコ創造都市ネットワーク】 創造的・文化的な産業の育成・強化によって都市の活性化を目指す世界の各都市が、国際的な連携・相互交流を行うことを支援する枠組で、文化の多様性の保護を重視するユネスコ(国際連合教育科学文化機関)が平成 16 年に創設。

<sup>136</sup> 【メディアアーツ】 ユネスコ創造都市ネットワークの登録分野の一つで、デジタル技術などを用いた新しい芸術表現。映像、演劇・舞踊(パフォーミングアーツ)なども含む幅広い表現であり、創造的な産業にも波及する概念。

<sup>137</sup> 【クリエイティブ人材】 ここでは、企画・デザイン・パフォーマンスなどを通じて新たな価値を創造する人材をいう。

## さっぽろ未来創造プロジェクト

札幌市では、先人たちが培ってきた財産を生かし、官民の連携を通じて札幌の未来を創造していくため、以下の3つのプロジェクトに重点的に取り組みます。

市民、企業、行政など、このまちに関わるすべての人が、札幌の将来の姿を共に思い描き、共有し、そこから湧き上がる情熱を胸に、それぞれの立場で役割を發揮しながら、都市像の実現に向けてまい進してきます。こうした官民一体となった活動によって夢を実現していく取組を、未来創造プロジェクトと名付け、シビックプライド<sup>138</sup>の醸成を図りつつ、新たな札幌のブランド価値を創造していきます。

新たな札幌の  
ブランド価値の創造

企業等

市民

行政

### 1 「新幹線の札幌延伸の早期実現」

私たちの長年の夢であった新幹線の札幌延伸。

北海道の中心都市と全国各地を結ぶ路線として、また、交流人口や商流の増加を受け入れるための基盤として重要な新幹線について、札幌延伸の早期実現を目指し取り組みます。

同時に、延伸効果を北海道全体に波及させていきます。



### 2 「冬季スポーツ国際大会の誘致」

ウィンタースポーツの感動を、世界と分かち合う。

札幌市は、約40年前に冬季オリンピックを開催した大都市として世界的に有名であり、また、多くの関連施設という資源もあります。

こうした資源を活用しながら、国際的なスポーツ大会の開催を通じて、再び輝きを放ち、都市ブランドを更に高めることによって、市民の誇りにつなげていきます。



### 3 「バックアップ拠点としての全国への貢献」

東日本大震災などを機に注目を浴びる、リスク分散の考え方。

札幌市には、大都市としての都市機能や冷涼な気候、地震や台風などの発生率が低いなど、バックアップ拠点として必要な条件が多くそろっています。都心の機能向上や、都心アクセス機能の強化を図るとともに、空港・港湾の積極的活用を図ることで、バックアップ拠点を形成し、日本全国に貢献していきます。



<sup>138</sup> 【シビックプライド】ここでは、市民が都市を構成する一員であると自覚し、誇りや愛着をもって、都市をより良くしようとする当事者意識をいう。

## 10年後の目指すべき姿

札幌・北海道の将来を担う創造性豊かな人材が育ち、誰もが活躍できる環境が整っています。さらに、女性や高齢者を始めとした市民一人一人が力を発揮し、多様化する社会的課題の解決や持続可能な経済の成長が実現されています。

### パラダイム シフト

**実現するために変わります！**

#### 女性が活躍できる環境整備

- ◆女性の力を生かした起業や就職の支援
- ◆多様な保育サービスや放課後児童クラブの利便性向上



## 6-① 将来を担う創造性豊かな人材の育成・活用

### 現状分析と施策の方向性～SWOT分析より～（参考資料2参照）

札幌市内には、15の大学に約5万人の大学生が通学するなど、大学等の高等教育機関が集積しています。

こうした地域資源を活用するとともに、幼い頃から創造性や国際感覚を育む環境づくりを行うことにより、札幌・北海道の将来を担う人材を育てる必要があります。

子どもたちが文化芸術に親しむ環境や、様々な就業体験、留学体験などの教育プログラムを充実させることで、幼い頃から創造性や国際感覚を育むなど、子どもたちの経験を豊かにする環境をつくることにより、高等教育機関などにより、札幌・北海道の将来を担う創造性豊かな人材の育成につなげます。また、優れた人材が持つ知識や経験などを積極的に活用します。

## <主な取組>

### ●子どもたちの経験を豊かにする環境をつくります。

#### 【創造性や国際感覚豊かな人材の育成】

##### ○創造性を育む教育プログラムの充実

子どもたちの創造性を育むため、札幌の自然や歴史等を学び、文化芸術に親しむ機会や、食育、科学的リテラシー<sup>139</sup>、勤労観や職業観を育む学習機会など、様々な教育プログラムの充実を図ります。

また、より効果的に学び、体験ができるよう、次世代型博物館<sup>140</sup>計画の策定を進めるなど、学習環境の整備・活用を図ります。



##### ○国際理解教育などの推進

国際感覚豊かな人材を育成するため、国際理解教育<sup>141</sup>の推進や若い頃からの海外経験を促すとともに、海外との交流促進などを図るほか、市立中高一貫教育校を設置します。

	短期的な取組	長期的な取組
ロードマップ	<ul style="list-style-type: none"> <li>創造性を育む教育プログラムの充実</li> <li>国際理解教育の推進、海外との交流促進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>状況に応じた事業の見直し、充実</li> <li>国際感覚豊かな人材を活用した産業振興の推進</li> </ul>

### ●札幌・北海道の将来を担う創造性豊かな人材を育成します。

#### 【高等教育機関などの特性を生かした人材育成】

##### ○高度専門職業人<sup>142</sup>の創出やセミナーなどの充実

中小企業の若手社員や離職後の女性などのキャリアアップの機会を提供するため、市内の大学などによる高度専門職業人の創出を推進するとともに、就業能力の開発に関するセミナー等の充実を図ります。



##### ○アートマネジメント<sup>143</sup>人材の創出

アートマネジメントを活用した文化芸術活動の一層の推進を図るため、(仮称)アートセンターにおいて、必要な理論を学ぶ講座を実施するとともに、現場を体験する実習を行うなど、アートマネジメント人材の創出を進めます。

	短期的な取組	長期的な取組
ロードマップ	<ul style="list-style-type: none"> <li>高度専門職業人の創出、就業能力開発セミナー等の充実</li> <li>アートセンターの設置に向けた取組</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>若手社員や離職後の女性などのキャリアアップの促進</li> <li>アートマネジメント人材の創出</li> </ul>

<sup>139</sup> 【リテラシー】 何かの分野や物事に習熟してそれを使いこなすことができる能力。

<sup>140</sup> 【次世代型博物館】 ここでは、自然の成り立ちや人と自然の関わりを、市民と共に探究し、札幌への理解を深め、創造性を育む、街や市民に開かれた次世代型の自然系総合博物館をいう。

<sup>141</sup> 【国際理解教育】 日本の伝統と文化を大切に、世界の人々の多様な生活や文化を理解し尊重する態度を養うとともに、世界平和に貢献し、国際社会で信頼と尊敬を得るにふさわしい資質を育成する教育。

<sup>142</sup> 【高度専門職業人】 ここでは、社会経済の各分野において指導的役割を果たす高度で専門的な職業能力を有する人材をいう。

<sup>143</sup> 【アートマネジメント】 ここでは、アート資産(施設、イベント、アーティスト・市民)それぞれの質を高め、相互の連携をコーディネートすることをいう。

## ●優れた人材の知識や経験などを生かします。

### 【留学生や高度人材の積極的な誘致・活躍】

#### ○留学生の誘致促進

留学生の受入れを促進し、多文化共生による都市の魅力向上や、グローバルな視野を持つ市内学生の育成を図るため、大学などによる留学生誘致活動への支援を行うとともに、札幌市の海外ネットワークを活用し、留学生の誘致に向けたPRを実施します。



#### ○高度人材の誘致・活躍

市民の創造性を高め、まちの活性化を図るため、アーティスト・イン・レジデンス<sup>144</sup>の実施を通じて、国内外から芸術家を招き、市民が身近に芸術に触れ合う機会を提供します。

また、二地域居住<sup>145</sup>の推進等により、創造的活動に携わる人材を誘致するなど、道外の優れた人材が、札幌で活躍する機会を提供します。



	短期的な取組	長期的な取組
ロードマップ	留学生や高度人材の誘致促進	留学生や高度人材の活躍によるまちの活性化の促進

### 【優れた人材の就業支援】

企業の高度化により、経営基盤の強化や収益性を高めるため、優れた人材と企業のマッチング支援の強化を図るとともに、留学生などのグローバル人材に対する就職セミナーや就業マッチングを推進します。



	短期的な取組	長期的な取組
ロードマップ	優れた人材と企業のマッチング支援 留学生の市内就業ニーズの把握と支援方策の検討	創造性豊かな優れた人材と企業のマッチング支援の充実 留学生の就職や起業への支援の展開

## <成果指標>

指標選定の考え方	指標	現状値	目標値
子どもが育つ環境の豊かさを示す指標	子どもが自然、社会、文化などの体験をしやすい環境であると思う人の割合	63.9% (平成 24 年度)	70% (平成 34 年度)
国際化の要素の一つである海外からの留学生の受入状況を示す指標	海外からの留学生数	1,813 人 (平成 23 年度)	3,400 人 (平成 34 年度)

<sup>144</sup> 【アーティスト・イン・レジデンス】アーティストの滞在型創造活動、またその活動を支援するシステム。

<sup>145</sup> 【二地域居住】一般に、都市住民等が、多様なライフスタイルを実現するための手段の一つとして、農山漁村等に定期的・反復的に滞在・居住することにより、都市の住居に加え複数の生活拠点を持つことをいう。ここでは首都圏と札幌市の2つの地域に生活拠点を持つことを指す。

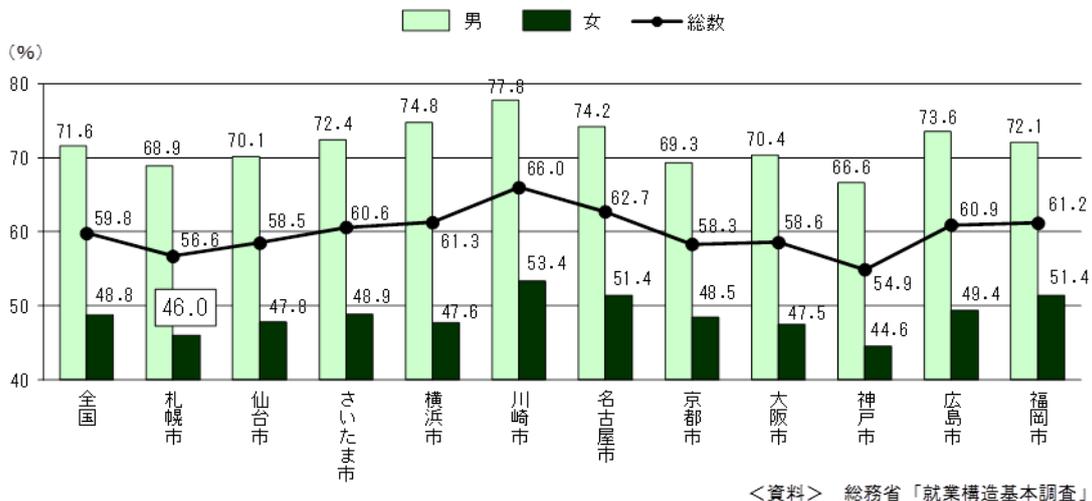
## 6-② 誰もが活躍できる社会の実現

現状分析と施策の方向性～SWOT分析より～（参考資料2参照）

札幌市は人口に占める女性の割合が政令指定都市の中で一番高い一方、女性の有業率<sup>146</sup>は全国平均を下回っています。また、高齢化が進行する中で、元気に活躍する高齢者が増えています。

これらの方々が活躍しやすい環境づくりを行うことで、女性ならではの視点による付加価値の向上や新たな市場の開拓が進み、また、多様化する社会的課題への対応に向けた活動が活発化することなどにより、新たな雇用が生まれ、地域経済の活性化にもつながっていきます。

図1-7 男女別有業率（平成19年10月1日現在）



子育てなどと仕事が両立できるように、子育て支援環境の充実やワーク・ライフ・バランス<sup>147</sup>の取組の促進などを通じて、働く意欲のある女性の活躍しやすい環境をつくります。また、豊富な社会経験・知識・技能を持つ高齢者の起業、就職を支援すること等により、社会的課題を解決するソーシャルビジネスやコミュニティビジネス<sup>148</sup>などの活動を促進し、女性を始め、誰もが活躍できる社会を実現します。

<sup>146</sup> 【有業率】 15歳以上人口に占める有業者の割合。

<sup>147</sup> 【ワーク・ライフ・バランス】 やりがいのある仕事と充実した個人生活が調和したバランスの良い働き方。

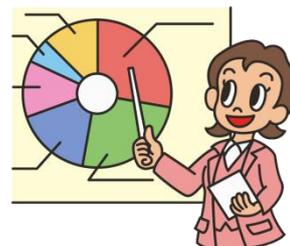
<sup>148</sup> 【コミュニティビジネス】 地域の課題を住民、NPO、企業などが連携して、ビジネスの手法を用いて解決しようとする事業。

## <主な取組>

### ●女性が活躍しやすい環境をつくります。

#### 【女性の起業や就職の支援】

女性の活躍を支援するため、女性の潜在的な力を生かした起業や就職への支援を行うとともに、公開講座などによる離職後のキャリアアップの機会提供を通じて、女性の再就職を支援します。



	短期的な取組	長期的な取組
ロードマップ	起業等、キャリアアップ支援、ニーズの把握と支援方策の検討	起業や就職、キャリアアップの支援の充実

#### 【子育て支援環境の充実】

##### ○多様な保育サービスの充実

子育てしながら働きたい女性の活躍を支援するため、認可保育所の整備を進めるとともに、地域型保育や休日保育を推進します。また、延長保育や一時預かりなどの地域子ども・子育て支援事業を拡充するほか、認定こども園<sup>149</sup>への移行支援を行います。



##### ○放課後児童クラブの利便性向上

小学校に通う子どもを持つ世帯の就労などを支えていくため、放課後児童クラブの充実を図るほか、学校と児童会館の併設化の検討を進めます。

	短期的な取組	長期的な取組
ロードマップ	多様な保育ニーズの的確な把握 保育サービスの充実	ニーズに即した子育て環境の整備促進 (多様な保育サービスの充実)

#### 【ワーク・ライフ・バランスの促進】

地域や家族の協力なども得ながら、子育てと仕事を両立できる環境を整備し、誰もが活躍できる社会を実現するため、市民や市内企業へのワーク・ライフ・バランスの普及啓発を行うとともに、取組企業へのアドバイザー派遣などの支援を行います。



	短期的な取組	長期的な取組
ロードマップ	ワーク・ライフ・バランスの促進、ニーズの把握と支援方策の検討	ワーク・ライフ・バランスの普及啓発と取組企業への支援の充実

<sup>149</sup> 【認定こども園】幼稚園や保育所などが教育と保育の両方の機能を提供するとともに、子育て支援事業を行う施設のこと。

## ●社会的課題を解決するための活動を促進します。

### 【ソーシャルビジネスなどの立ち上げ支援】

多様化する地域課題をビジネスの手法をとり入れて解決するとともに、就業機会の創出にもつながるソーシャルビジネスやコミュニティビジネスの活動を促進するため、経営相談・融資や助言者となる先輩起業家との出会いの場を提供するなど、その立ち上げを支援します。



ロードマップ	短期的な取組	長期的な取組
	立ち上げ支援、ニーズの把握と支援方策の検討	立ち上げ支援の充実

### 【高齢者の活躍の支援】

生涯現役社会を実現するため、豊富な知識や経験を持つ高齢者が、企業やソーシャルビジネス等の場で活躍する支援を進めるとともに、遊休農地等を活用して行う自給的農業や就農など（定年起農）を支援します。



ロードマップ	短期的な取組	長期的な取組
	活躍の場の発掘 起業や就職の支援	高齢者の活躍の場の段階的な充実

## <成果指標>

指標選定の考え方	指 標	現状値	目標値
ワーク・ライフ・バランス社会の進展に対する市民意識を示す指標	仕事と生活の調和がとれていると思う人の割合	47.4% (平成 24 年度)	70% (平成 34 年度)
女性が活躍しやすい環境の充実度を示す指標	女性の有業率	46.0% (平成 19 年度)	60% (平成 34 年度)